

韓国慶州市における宿泊施設の分布特性と観光機能の分化

100099

The Distribution Characteristic of Accommodations and Differentiation of Tourism Function in Kyongju City, Korea

松村 嘉久*(阪南大学)・大谷 新太郎(阪南大学)

Yoshihisa MATSUMURA (Hannan University), Shintaro OTANI (Hannan University)

キーワード: 韓国慶州, 宿泊施設, 分布, 観光, 機能

Keywords: Kyongju Korea, accommodation, distribution, tourism, function

1. はじめに

新羅時代の古都・慶州市は、韓国屈指の観光地である。世界遺産「石窟庵と仏国寺」(1995年登録)が、市街地東南15kmほどの所にあり、市街地南部から南山地区にかけた「慶州歴史地域」も、2000年に世界遺産登録されている。慶州市での観光開発の歴史は古く、朴正熙大統領の指示で1971年から始まり、普門観光団地などが建設されている。市街地北20kmほどに位置する良洞民俗マウルでも、世界遺産登録申請に向けて集落内外での景観整備や施設建設が進みつつある。

国土が狭く交通網が発達している韓国は、宿泊を伴わない日帰り観光圏が広い。しかし慶州の場合、市街地そのものが世界遺産登録され、石窟庵と仏国寺・普門観光団地・良洞など、魅力のある観光スポットが郊外に展開しているため、宿泊を伴う国内外からの観光客が多い。本発表では、慶州市の主な宿泊施設の集積地域で行ったフィールドワークから、宿泊施設の内実と分布特性を概観し、観光機能の分化に迫りたい。

2. 慶州市の主な宿泊施設の集積地域

慶州市には統計上は333軒の宿泊施設が存在し、客室総数は1万室を超える。その内訳は、A:等級付きの観光ホテル(13軒2,321室)、B:コンドミニアム(8軒2,096室)、C:旅館(276軒6,090室)、D:旅人宿(36軒398室)となる。最も多いCの内実は、観光・ビジネスホテル的なものからモーテル・ラブホテル的なものまで多様である。ただし、韓国のモーテルやラブホテルは客室を時間貸しする所が少なく、一般的な観光客もよく利用する。C・Dのなかで立地条件の悪い所は、廃業状態にあるものも少なくない。

慶州市の主な宿泊施設の集積地域は、①慶州高速バスターミナル周辺(50数軒)、②慶州駅周辺(20数軒)、③普門観光団地(20数軒)、④仏国寺周辺(40数軒)である。以上の四つの集積地域で、慶州市の全宿泊施設数の3分の1強を占め、客室数ならば約8割を占める。我々はこれら宿泊施設の外観と周辺の観察に加えて宿泊料金の確認を行い、宿泊施設が分散分布する②を除いた三地域では、包括的な土地利用調査も行った。

慶州市役所提供の統計資料によると、近年の外国人観光客は50万人前後、国内観光客は600から800万人くらいで推移している。外国人観光客の4割強は日本人が、国内観光客の4割強は学生が占める。2000年の世界遺産登録を契機とする顕著な観

光客増は統計から見出せないが、外国人観光客を中心に宿泊を伴うものが確実に増えてきている。

3. 慶州市における宿泊施設の分布特性と観光機能の分化

集積地域①の宿泊施設はほぼ全てCに属する。宿泊料金は1部屋で2万₩から6万₩、5階建てまでの小規模なものばかりである。民家も多く残るが、バス停付近にレストランや小売店舗が多く、個人観光客が過ごしやすい空間編成が構築されている。格安ゲストハウス集積地域としての認知度が高く、外国人個人観光客の利用も多く、英語や日本語の看板も散見される。2000年の世界遺産登録の恩恵を受け、①の宿泊需要は増加傾向にあるためか、建設・改装中の宿泊施設もあった。

②の宿泊施設も全てCに属し、宿泊料金は2万₩から4万₩くらいである。日本でいう駅前旅館が多く、サウナ併設で客室を時間貸しする怪しげな所も数軒あった。2010年に慶州KTX新駅ができ、現在の慶州駅は廃止される予定なので、経営維持は困難になると見込まれる。外国人が宿泊するのは極めて稀で、国内ビジネス客が主な客層である。

湖畔リゾートである③の宿泊施設は、規模が大きく宿泊料金の高いA・Bが中心であり、カジノ・温泉・プールなど、付属施設も充実している。湖畔から離れた所にCが数軒立地している。主な客層は国内観光客と外国人観光客であり、個人よりも団体やパッケージでの利用が多い。国内観光客は9割以上が普門を訪問するが、外国人観光客は5割前後にとどまる。

仏国寺周辺④はCが多く、AやBも数軒立地する。国内修学旅行生向けの大規模なユースホステルが数軒あるが、学生の長期休暇が終わると次のシーズンまで事実上閉鎖する所が多い。宿泊料金が3万₩から4万₩くらいの小規模なモーテルも立地するが、利用客は少ない。市内循環バスの乗り場付近以外のレストランや複合商業施設は、実に閑散としている。建物こそ真新しい地域であるが、宿泊施設も含めて、すでに廃業、あるいは開店休業状態の所が目立つ。

慶州市は釜山からの日帰り観光圏で、KIXの開通でそれはさらに広がるであろうが、集客力の高い観光資源が郊外に点在するため、宿泊を伴う観光客は今後も増加するであろう。宿泊施設の集積地域①・③・④は、各々が異なるタイプの観光客の受け皿となり、観光機能の分化が生じつつある。①と④では空間的リラクチャリングが起こる可能性も高い。